

外国語教育メディア学会第32回九州支部研究大会を終えて

大会実行委員長 小川直義

支部長の木下先生から「来年、支部研究大会をわたしの新大学でやるから、その次の年にはあなたの新大学でやって欲しい」と頼まれたのは今から3年前のある運営委員会の席上であった。その時、わたしの「新大学」はまだ敷地用の山を切り崩し谷を埋めている状態で、大学の名前もなければ校舎のかけらもなかった。将来のことは1週間位しか見通せないわたしは(今書いているこの原稿の締め切りもあと3日である)、3年も先の話ならば何とかなるだろうと気楽に考え、「ええ、まあ」とあいまいな返事をしてしまった。

月日の立つのは早いもので、平成11年6月12日・13日、第31回の支部研究大会が福岡国際大学(平成10年4月大宰府市に開設)で行われ、翌年の6月10日・11日、外国語教育メディア学会と改称してから第1回目の九州支部研究大会が県立長崎シーボルト大学(平成11年4月長与町に開設)で開催されることに決定した。しかし、それからが大変であった。



県立長崎シーボルト大学 CALL 教室授業風景

長与町は長崎近郊といってもまだまだ田舎なので、そもそもひとが集まるだろうかという心配があった。実際、平成12年1月12日に行われた運営委員会で、事務局より、研究発表を募集しているが、今のところ申込み者数0件という報告がなされ、暗澹とした気分させられたのを覚えている。しかし、その後、事務局や、運営委員の必死の宣伝・呼び掛けが功を奏し、申込み者数が次第に増大し、3月末には過去最大の21件に達した。(その後、大会直前にドタキャンが1件発生し、最終的には20件になった。)

会場校は教室を貸すだけでいいと思っていたが、世の中そう甘くはなかった。交通アクセス、列車・バス等の時間割、横断幕・立て看板・研究発表題目の張り紙、弁当手配、協賛展示場、宅急便の受取り・保管、バイト生募集、エアコンチェック、アンペアチェック、駐車場手配、協賛デモカーとの連絡、懇親会場準備等々と休む暇がないほどであった。事務局の富岡先生は去年の経験を生かし、わたしが何をすべきか的確にアドバイスしてくれた。この学会の件で富岡先生からわたしに送られたメールの数は、今年に入ってからだけでも何と43通に及ぶ。これは、恋人同士以上の異常な関係である。この中で最後まで一番苦労したのは、やはり使用機器の設定である。テープレコーダー、VHS、OHP、CD、DVDなどについては特に問題はなかったが、パソコンについては発表者の希望に沿って、あらかじめソフトを組み込んだり、機器を調整したりしなければならなかった。また、LL準備室で作成した動画をLL教室のほうに送信・保存できないことが発表直前になって判明した。しかし、それでもソニーエンジニアリング(株)、およびエイ・ヴィ・ワン(株)の夜を徹しての作業で何とか当日までに準備を完了することができた。

当日は、この時期にしては凌ぎ易い「学会日和」であった。会員の参加者数は事務局発表で84名、業者も含めると100名を超えた。4室に分かれて行われた第1日目の研究発表は、うまい具合に各部屋15~20名平均に分散し、熱心な討議が行われた。夜の懇親会は駅前のセンチュリーオン・ホテルで行われ、申込み者数(会費を払った数)46名のところ何故か参加者数(飲み食いした数)が52名あった。(それだけ盛況だったということ!)そして、2次会には20名程が思案橋に繰り出した。お連れしたスナックがたまたまNBA(バスケットボールとは関係ない)に所属していて、カクテルにはちょっとうるさい大津先生から店の選定を誉められた。また、2日目の講習会も20名の受講者があり好評であった。

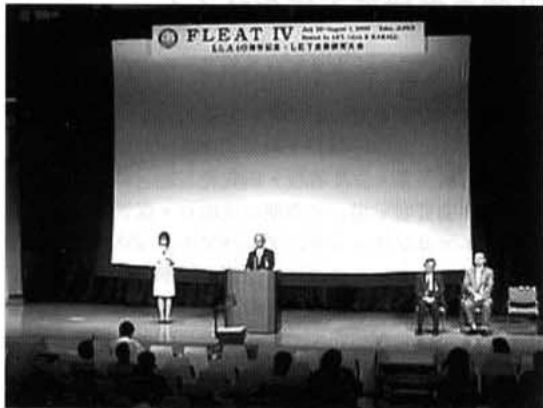
そんなわけで、あっという間に緊張の2日間が過ぎ、会場校として何とか無事に大役を終えることができた。これはすべて大勢の方々の協力と支援のお陰である。この場を借りて改めてお礼を申しあげる。

来年の会場校は福岡大学である。今年以上の成果を期待して止まない。

FLEAT IV 報告 —フォーラムを中心として—

長崎純心大学短期大学部 鈴木 千鶴子

近年増えてきている国際学会の中でも、FLEAT は日本の関与が大きな比重を占める特徴をもっている。その FLEAT 大会が回を重ね、今夏は 4 回目を迎えた。日本側の学会主体も外国語教育メディア学会と名称変更した年であり、且つ 40 周年行事として記念すべき催しとなった。



40 年の重みは、例えば関西支部のフォーラムが直接その歴史を取り上げるなど、随所に現れていた。また、最近英語を主とした外国語教育の進展が顕著な、韓国や台湾等の日本の近隣諸国からの参加が増えていたことも注目に値した。さらにアメリカの発表内容の成熟ぶり、日本からの発表テーマの多様化などが全体的な特色として挙げられよう。

アジアの近隣諸国の状況については、とにかく勢いが感じられた。ただしメディアの利用に限って言えば、香港を除いてまだこれから発達段階にあるものと観られた。

アメリカ（カナダを含む）の当領域における先行性は、シンポジウム “It's Not Just a Language Lab Anymore: IALL's Perspective on Trends in Language Learning Technology” が端的に物語っていた。このシンポジウムではラボの管理運営を取り上げていたが、テクノロジーの発達に伴って進化してきた電子教育環境の中で、「学び」ということをキャンパス全体の、さらにはインターネット世界全体の視野から統合的に捉え、しかも最近厳しくなってきた財政的制約を考慮しながら、コピーライト等の法的な側面への取り組みにも踏み込む等の新機軸を示していた。このシンポを通して、関係者間に新たな協働が必要とされていることを実感させられた。その意味でも学会の存在意義を再認識するものであった。

日本からの発表の多様化は、テクノロジーの電子化がとくに情報通信分野において目覚ましいという現実から来した当然の結果であろうが、「外国語教育」という極

めて複雑で多様な要素を包含する対象に対して、従来は攻略しあぐねていた側面や方法、実践が可能になってきていることの証しでもあった。その代表と申すにはおこがましいが、少なくともそのような意図で支部フォーラム “Multi-purposive Syllabus via Multi-media” を立案・展開させていただいたので、以下にまとめを兼ねて報告することとする。

初めにマルチメディア（とくにコンピュータ）を利用することは、学習者にとって発見的協働的段階構築の方法として主体性を育成するものであるとの教育理論を確認した。トップバッターとして竹野茂先生（宮崎公立大学）に、テーマの実施にあたり前提となる「主にインターネットサーバーに関する技術的基礎」について解説的に提示いただいた。ついで山内ひさ子先生（久留米工業大学）に、CAI の活用によって言語のマルチな面を教師の目的にそって如何に効果的に教育するか、留意点にも言及しながらその可能性を自作の教材に基づき提起いただいた。次に Judy Gallian 先生（宮崎国際大学）に、目的を広げた「海外研修」のシラバスに適應したマルチメディアの利用方法について具体的事例を紹介していただいた。最後に、東條加寿子先生（九州女子大学）に、「時事英語」教育における教材情報媒体について、調査研究の結果を踏まえて各特性を明らかにするとともに、授業での利用の仕方について示唆をいただいた。



これらの多岐にわたる貴重な提案に対して、具体的質疑応答が活発になされたが、時間が足りなく踏み込んだ議論に至らなかった点は残念であった。ただし、参加者にとってテーマへのさらなる課題と挑戦への意欲が認識されたとの感触は得られた。他の支部のフォーラムと同時に進行であったにもかかわらず、支部を越える方々の出席を多数いただいたことが何よりの評価であったと言える。

FLEAT IV の準備実行にあたられた九州支部役員の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成12年度外国語教育メディア学会理事会報告

LET 九州支部理事 熊本大学 島谷 浩

外国語教育メディア学会に名称改称して最初の理事会は、FLEAT IV 開会前日の7月28日に、神戸ベイシェラトンホテルの会議室「北野」にて開催された。九州支部からは、支部選出理事4名全員（木下支部長、石井・大津両副支部長、島谷）とオブザーバーとして武井支部事務局長が出席した。

理事会は、ホテルでの開催のため時間延長ができないと予めことわられた上で、来年度の全国大会担当支部となる中部支部の松本青也支部長の司会のもと、1) 役員異動、2) 各種委員会報告、そして3) 審議事項が、予定された午後2時から5時までのきっちり3時間で処理された。主なものとして、下記のような点が、決定または、継続審議となった。

1) 役員異動

- 名誉会長として、羽鳥博愛先生と丹羽義信先生が、推薦され承認された。

2) 各種委員会報告

- 新しい学会機関紙名を、“Language Education and Technology”とし、号数は、38号と前学会機関紙からの通し番号とすることが、承認された。書式は、従来の MLA から APA スタイルに変更されることが決定した。
- 本部事務局が、学会ドメイン名を取得し、今後の学会ホームページの維持・管理を担当することになった。そのため、ネットワーク委員会の使命は終了したので、委員会の解散が提案され承認された。

- コンピュータ部会は、「CALL 部会」と改称されることになった。

3) 審議事項

- 関東支部より、本部の経済的基盤を安定するために、支部からの本部運営負担金の増額が提案された。審議の結果、原案通り支部負担金の割合を、現在の各支部会費収入の11%から15%に引き上げることが了承された。
- 「学会会則」と「支部会則」の修正案と各々の英文会則案が提出されたが、継続審議となった。なお、学会の英文名の頭に定冠詞を冠することになり、正式英語名称は、“The Japan Association for Language Education and Technology”と修正されることになった。
- 「理事選出規定」の改定案と「理事会内規」案が提出されたが、継続審議となった。

名称改称し、新しく生まれ変わった外国語教育メディア学会は、内部の規定なども修正され、新世紀に向けて着実に進歩しているようである。7月31日付けで改定された「学会会則」、「支部会則」、「理事選出規定」そして、「機関誌編集規定・執筆要項」が、本部事務局のホームページ (<http://www.j-let.org>) にて閲覧可能となっているので、一般会員の皆様も一読し、学会の動向を注視していただきたい。



1999（平成11）年度 LLA 九州支部収支決算

〈収入の部〉

2000年6月10日

費 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	10,813	10,813	
会 費	700,000	764,000	5,000円×152人+4,000円
大会当日参加費	20,000	18,000	1,000円×18人（第31回支部大会）
LLA 講習会費	97,500	34,500	3,000円×10人、1,500円×3人
展 示 ・ 広 告	340,000	340,000	20,000円×12区画、50,000円×2区画
郵便貯金利子	300	297	
そ の 他	0	0	
合 計	1,168,613	1,167,610	

〈支出の部〉

費 目	予 算	決 算	備 考
研究大会関係	120,000	100,000	第31回支部研究大会
LLA 講習会	60,000	90,000	講師謝礼〔30,000円×3人〕
通信連絡費	310,000	283,853	郵送料、事務局電話、FAX 使用料
会 議 費	140,000	90,944	理事会、運営委員会、評議員会等
印 刷 費	280,000	251,810	支部便り、事務局封筒等、支部大会プログラム並びに要綱
事務用品費	10,000	1,896	封筒、FAX 用紙等
全国大会積立金	20,000	20,000	
支部負担金	72,160	72,050	本部経費へ繰入
事務局謝礼	48,000	48,000	
FLEAT IV 助成金	50,000	0	2000年度 FLEAT IV のための支部負担金（支払いは2000年度に繰り下げ）
予 備 費	58,453	18,484	支払手数料等
合 計	1,168,613	977,037	

収入：¥1,167,610 支出：¥977,037 次年度繰越金：¥190,573

2000（平成12）年度 LET 九州支部予算

〈収入の部〉

2000年6月10日

費 目	予 算	備 考
前年度繰越金	190,573	
会 費	700,000	5,000円×140人
大会当日参加費	15,000	1,000円×15人（第32回支部大会）
LET 講習会費	60,000	2,000円×10人+4,000円×10人
展 示 ・ 広 告	410,000	20,000円×15区画（+10,000円）、50,000円×2区画
郵便貯金利子	300	
そ の 他	0	
合 計	1,375,873	

〈支出の部〉

費 目	予 算	備 考
研究大会関係	70,000	第32回支部研究大会
LET 講習会	70,000	講師謝礼〔10,000円×7人〕
通信連絡費	290,000	郵送料、事務局電話、FAX 使用料
会 議 費	100,000	理事会、運営委員会、評議員会等
印 刷 費	260,000	支部便り、事務局封筒等、支部大会プログラム並びに要綱
事務用品費	30,000	印鑑、封筒、FAX 用紙等
全国大会積立金	100,000	
支部負担金	72,050	本部経費へ繰入
事務局謝礼	48,000	
FLEAT IV 助成金	150,000	FLEAT IV のための支部負担金
研究会補助金	130,000	研究補助費30,000円+特別補助100,000円
予 備 費	55,823	支払手数料等
合 計	1,375,873	

【2000・2001年度外国語教育メディア学会（LET）九州支部役員名簿】

2000年9月16日現在

名誉支部長

田 所 信 成 （福岡大学名誉教授）
池 浦 貞 彦 （福岡教育大学名誉教授）

支 部 長

木 下 正 義 （福岡国際大学）

副支部長

石 井 和 仁 （福岡大学）
大 津 敦 史 （福岡大学）

事務局長

武 井 俊 詳 （西南学院大学）

理 事

木 下 正 義 （福岡国際大学）
石 井 和 仁 （福岡大学）
大 津 敦 史 （福岡大学）
島 谷 浩 （熊本大学）

会計監事

佐 藤 勇 治 （熊本学園大学）
谷 口 雅 基 （筑紫女学園大学）

評 議 員（氏名50音順）35名 ☆印は運営委員

阿 部 弘 （西南女学院短期大学）
☆石 井 和 仁 （福岡大学）
☆石 川 富紀子 （福岡女学院大学短期大学部）
板 倉 武 子 （福岡女学院大学）
☆大 里 文 人 （西日本工業大学）
☆大 津 敦 史 （福岡大学）
☆小 川 直 義 （長崎シーボルト大学）
☆奥 田 裕 司 （九州共立大学）
☆梶 島 陽一郎 （佐賀県教育センター）
川 上 典 子 （鹿児島純心女子大学）
☆川 尻 徳 （大野中学校）
河 内 千栄子 （久留米大学）
☆木 下 正 義 （福岡国際大学）
佐 伯 敦 子 （筑紫女学園大学）
☆柴 戸 直 善 （西南学院大学）
☆島 谷 浩 （熊本大学）

陣 内 陽 子 （久保田町立思斉中学校）

関 き み 子 （活水高等学校）

染 矢 正 一 （大分県立芸術短期大学）

☆平 良 辰 夫 （琉球大学）

☆武 井 俊 詳 （西南学院大学）

☆竹 野 茂 （宮崎公立大学）

田 上 優 子 （福岡女子大学）

ティム・クロス （福岡大学）

☆テリー・ラスカウスキー （熊本大学）

☆東 條 加寿子 （九州女子大学）

戸 高 裕 一 （宮崎公立大学）

☆富 岡 龍 明 （福岡国際大学）

中 島 亨 （福岡教育大学）

中 野 秀 子 （九州共立大学）

☆濱 田 洋 子 （長崎純心大学）

林 日出男 （熊本学園大学）

☆樋 口 晶 彦 （鹿児島大学）

☆荘 口 博 雄 （熊本大学名誉教授）

☆山 内 ひさ子 （久留米工業大学）

学会誌編集委員

武 井 俊 詳 （西南学院大学）

樋 口 晶 彦 （鹿児島大学）

国際交流委員

東 條 加寿子 （九州女子大学）

CALL 部会委員

奥 田 裕 司 （九州共立大学）

島 谷 浩 （熊本大学）

支部ネットワーク委員

竹 野 茂 （宮崎公立大学）

支部紀要編集委員

石 井 和 仁 （福岡大学）

島 谷 浩 （熊本大学）

武 井 俊 詳 （西南学院大学）

山 内 ひさ子 （久留米工業大学）

事務局からの報告ならびに連絡

【新会員のご紹介】（氏名50音順）2000年10月31日現在

赤川 都	長崎大学非常勤講師
古場 なおみ	県立長崎シーボルト大学非常勤講師
野中 昭彦	西南学院大学大学院生
波多江 修	箱崎中学校
松田 茂実	（株）ジャネット
森 礼子	鹿児島県立短期大学非常勤講師
吉井 巧一	琉球大学
渡辺 リカ	長崎大学大学院生

【FLEAT IV 発表要項の販売】

2000年7月29日から8月1日に神戸市で開催されたFLEAT IV の発表要項を千円（郵送料を含む）で販売します。

購入希望者は、九州支部事務局へお申し込みください。

【LET ホームページ】

LET 本部：http://langue.hyper.chubu.ac.jp/lla/
LET 本部事務局：http://www.j-let.org
LET 九州支部：http://www3.miyazaki-mu.ac.jp/html/LET/LET.html

【会費納入のお願い】

2000年度までの年会費（5千円）をまだ納入されていない方は、できるだけ早く振り込んでいただきますようお願いいたします。

なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

支部の円滑な運営にご協力ください。

【2001年度 LET 九州支部研究大会のご案内】

日程：2001年6月9日（土）〈研究大会〉
6月10日（日）〈講習会〉

会場：福岡大学

問合先：福岡大学 大津敦史（大会実行委員長）

E-mail：otsu@fukuoka-u.ac.jp

【2001年度 LET 全国研究大会のご案内】

日程：2001年8月3日（金）前夜祭フォーラム
（名古屋国際センター）

8月4日（土）第1日目

8月5日（日）第2日目

会場：愛知大学 名古屋校舎

What's New
by
Panasonic

オペレーション
ユニット



液晶ディスプレイ

教師側

生徒側

AVユニット

*AVユニットには、CCDカメラと液晶ディスプレイのないモデルもあります。

写真はイメージです。画面はハメ込み合成です。

「いつでも」「どこでも」
「誰とでも」学べる
ネットワーク型
学習システム。

- ◎語学演習室に
- ◎ライブラリーに
- ◎多目的視聴覚学習室に
- ◎マルチメディア学習室に

**マルチ学習
システム**

●お問い合わせは 九州松下システム株式会社 〒812-8642 福岡市博多区榎田2-2-36 電話092(415)2836

松下通信工業株式会社 AVシステム事業部 〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 電話045(932)1231(大代表)

※ご使用の際は、取扱説明書、工事説明書をよくお読みの上、正しく設置してご使用ください。設置については、必ず販売店にご相談ください。

松下電器・松下通信